

1. 基本情報

- (1) 国名：ブルキナファソ
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：ワガドゥグ市
- (3) 案件名：ワガドゥグ市における道路維持管理機材整備計画（The Project for Improvement of Road Maintenance Equipment in Ouagadougou）
- (4) 計画の要約：本計画は、首都ワガドゥグ市において、道路維持管理機材を整備することにより、同市内の増加する交通需要への対応及び西アフリカ「成長の環」における各国際回廊の結節点としての重要性が増している同市の道路維持管理状態の改善を図り、もってブルキナファソの域内経済統合の促進に寄与するもの。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

ブルキナファソは、西アフリカ経済通貨同盟（UEMOA）の本部所在地であり、西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）加盟国中6か国と国境を接することから、域内の連結性を強化し、経済統合を推進する上で重要な役割を果たすことが期待されている。また、同国は、日本にとって第3位のゴマの輸入元であることに加え、金、マンガン等の鉱物資源の供給源としての潜在性も有している。また、同国はサヘル地域の中心に位置し、地域の安定に重要な役割を果たしていることから、アフリカの平和と安定を支援する日本として同国との関係を強化することは重要である。

こうした観点から、我が国は、対ブルキナファソ国別開発協力方針における重点分野の一つとして、域内経済統合の促進を掲げており、本事業を通じて道路維持管理機材を供与することで、国内の道路インフラ環境の改善、ひいては周辺国との連結性を高めることが期待され、同国との協力関係の維持・強化の観点からも重要である。

また、我が国は、2019年8月に開催した第7回アフリカ開発会議（TICAD7）において、同国を含む西アフリカ「成長の環」をはじめとする三重点地域を中心とした質の高いインフラ投資の推進、連結性向上に向けたインフラの強化・整備を表明しており、この協力は同表明を具体化するものである。

- (2) 当該国における道路セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

ブルキナファソは周辺を6か国に囲まれる内陸国であり、首都のワガドゥグ市は、同国の南にある沿岸国であるコートジボワール、ガーナ、トーゴ、ベナンと北にある内陸国であるニジェール、マリを繋ぐ物流の結節点としての役割を担っている。同国では、物流の80%以上が道路輸送であり、新型コロナウイルス感染症の影響により、物流は一時的に減少しているものの、道路輸送量は過去5年間で毎年約10%以上増加しており、2017年と比較し2018年は15%増になる等（同国政府統計（2018

年))、結節点としての役割や道路輸送の重要性は拡大している。

同国政府は、国家計画「国家経済社会開発計画」(2016年～2020年、次期5か年計画策定中)の重点戦略の一つとして「経済成長と雇用促進に資するセクターの活性化」を掲げ、輸送交通インフラ整備と維持管理を推進し、年間を通じて道路網を適切な状態に保つことを目指している。

ワガドゥグ市は、2016年から2020年にかけて人口が約48%増加し、その結果、2018年には交通量約1.4万台/日に達する等、交通需要が急増している。一方、増大する交通需要に輸送インフラ整備・維持管理が追いついておらず、適切な状態に保たれた舗装道路は総延長3,650Kmのうち約24%に留まり(同国政府統計(2018年))、道路損傷が深刻になっている。

同国では、5～10年の期間で定期的に道路の補修を行う定期維持管理作業、及び道路損傷が発見された際に補修を行う日常的な緊急を要する整備作業を民間へ外注しているが、同国政府法令に沿うと業者選定から工事開始まで1年程度を要してしまうため、時宜を得た日常整備作業が実施できず、2018年は約50件の洪水等で損傷した道路が補修されないままであった(JICA調査(2019年))。加えて、道路が補修されないまま劣化が進行し、その結果、大規模な改修が必要となり維持管理費用の増加につながっている。同国政府は、調達法規の改正や契約手続きの早期化に関する取り組みを進める予定であるも、日常的な緊急を要する整備作業に関しては即時の対応が求められるため、インフラ省傘下に日常かつ緊急の整備作業を実施する道路維持管理作業班を設立すべく準備を進めている。一方、人員と予算の目途はついていないが、保有機材の不足により、計画的に道路維持管理を実施するには至っていない。

「ワガドゥグ市道路維持管理機材整備計画」(以下、「本計画」という。)は、道路維持管理総局を対象に道路維持管理機材を整備することにより、市内の増加する交通需要への対応のみならず、西アフリカ「成長の環」における各国際回廊の結節点としての重要性が増しているワガドゥグ市の道路維持管理状態の改善を図るものである。また、同国国家計画の実現に貢献すると共に、域内の人やモノの移動における安全性の向上により、TICAD7で掲げている地域連結性の向上に資するものであり、域内での物流改善のみならず、域内経済統合と経済成長に大きく貢献する事業と位置づけられる。

技術協力「道路維持管理能力向上プロジェクト」(2021年～2024年)により、ワガドゥグ市の道路維持管理計画策定能力向上及び道路維持管理作業班設立等を目的に本計画の実施機関を支援している。また、JICAは、道路維持管理体制整備を通じた計画、施工、維持管理の一連のサイクル構築を目指し、既往のJICA事業の知見の集積に加え、土木学会との覚書締結により学術機関や民間企業との連携を通じ、道路アセットマネジメントプラットフォームを立ち上げ、効率・効果的な支援ができる体制を構築している。本計画では、計画、施工、維持管理の一連のサイクル構築を見据えた機材を選定する等、同プラットフォームに集積された知見の活用が期待できる。また、技術協力と機材整備の組み合わせにより、今後は建機の維持管

理センターとして、研修等を通じた域内への技術移転等も視野に入れる。

3. 計画概要

(1) 計画概要

① 計画内容

(ア) 機材等の内容

【機材】モーターグレーダー、ブルドーザ等未舗装道路補修作業用機材及びアスファルトフィニッシャー、ラインマーカ―舗装道路維持管理機材、計46台（詳細は協力準備調査にて確認する）

(イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

詳細設計、入札補助、調達監理等（詳細は協力準備調査にて確認する）

② 期待される開発効果

ワゴドゥグ市において適切な状態に保たれる舗装道路及び未舗装道路距離が延長されることにより、同市人口 284 万人の都市交通における利便性向上への貢献が期待される。

③ 計画実施機関／実施体制：インフラ省道路維持管理総局

他機関との連携・役割分担：特になし。

④ 運営／維持管理体制：道路維持管理総局の機械・工作車両・電気技師 27 名が

運営・維持管理を行う。技術協力「道路維持管理能力向上プロジェクト」により、実施機関の組織運営改善が図られるほか、実施機関は、本計画で調達される機材と類似する機材の運用経験を有しているが、燃料やスペアパーツの調達を含めた先方政府の予算措置も含め、詳細は協力準備調査において確認する。

(2) その他特記事項

・環境社会配慮カテゴリ分類：C

・ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）

・他の援助機関の対応：米国ミレニアム挑戦公社（MCC）の支援プログラムの中でドイツ国際協力公社（GIZ）が道路維持管理マニュアルを策定しているが、本計画との重複はない。

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

アルメニア共和国向け無償資金協力「エレバン市道路維持管理機材整備計画」（評価年度 2007 年）の事後評価等では、整備機材のスペアパーツの発注から到着までに長時間を要し、その間機材を使用できない事例があった。発注から調達までの期間を見越したスペアパーツの確保が必要であったことから、本計画では、同国やその近隣諸国の販売代理店においてスペアパーツが入手可能な機材選定を行うとともに、調達期間を見越したスペアパーツの確保に留意する。

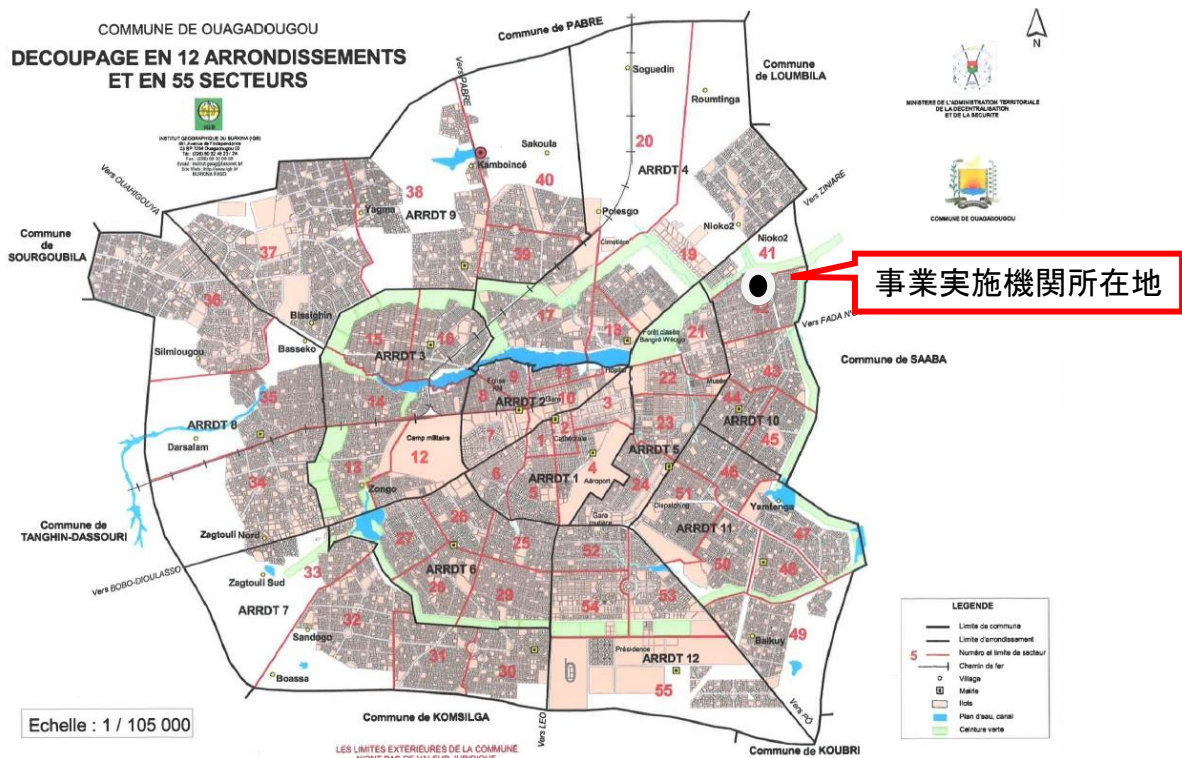
以 上

[別添資料] 地図

ワガドゥグ市における道路維持管理機材整備計画 地図



出典：国連 (<https://www.un.org/Depts/Cartographic/map/profile/burkina.pdf>)



出典：ワガドゥグ市